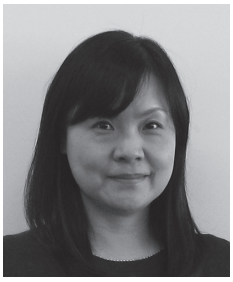
担当者スポット



自然と共生していくために

教育研修部　**木村直子**
Kimura Naoko

私の好きな休暇の過ごし方の一つに、自然や動物とのふれあいがあります。

自然や動物とふれあうことで、身体がリラックスできますし、気分が和み癒されます。

数年前に、野生のタテゴトアザラシを観るために、海外を旅行したことがありました。全身を真綿のような白い毛で覆われた赤ちゃんアザラシに遭遇し、感激したのを覚えています。タテゴトアザラシの主な生活拠点は海ですが、出産や子育ては陸で行い、その多くが冬にできる海氷上で行われています。

一方、各機関による調査では、近年の北極圏海氷域の縮小傾向が報告されており、地球温暖化や自然破壊との因果関係は、度々指摘されています。こういった海氷域の縮小は、アザラシの生態系に大きな影響を与えていて、脆弱な氷が割れて幼体のまま海に投げ出されるために命を落とす赤ちゃんアザラシが急増し、アザラシの個体数は年々減少しているそうです。

ここ数年、社会全体でも、環境問題に対する関心が高まり、節電や省エネ、3Rへの取組みなどの活動が盛んになりつつあります。私も積極的に環境にやさしいものを選んで購入するようになり、環境への負荷の少ない生産や消費を意識した暮らしを心掛けるようになりました。

人と自然が共生する循環型社会の形成に貢献できるよう、自分に出来る役割を果たしながら、高い環境意識をもって行動できるように努めていきたいと思います。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。昨年も各方面の方々のご協力を得まして、本誌を計画どおり発行することができましたことに、あらためて御礼申し上げます。特に、１年間に亘り「コラム」および「連載講義」の執筆を賜った北海道大学古市先生および(独) 国立環境研究所の方々、また、「特別寄稿」、「行政だより」、「電子マニフェスト情報」等に寄稿いただいた方々や産廃クローズアップの取材に対応いただいた事業所関係者の皆様に、誌面を借りて感謝申し上げます。また、本号は新春号ということで、当センターが平素ご指導、ご協力を賜っている環境省、(公財) 産業廃棄物処理事業振興財団、(公社) 全国産業廃棄物連合会から、年頭のご挨拶をいただき、誠にありがとうございました。

センターは今年、設立より25年を迎えようとしています。いままで蓄積した叡智を生かし循環型社会形成に向け精進する所存でございますので、よろしくお願い申し上げます。

（新　井）

本誌に関する連絡先：総務部広報室　e-mail:jigyo@jwnet.or.jp

【アンケートへのご協力のお願い】
日廃振センターのホームページでは、本誌のPDFファイルを掲載しています。ウェブアンケートで皆さまからのご意見等をお聞かせください。
URL http://www.jwnet.or.jp/publish/kikansi_desc12_4.shtml

日廃振センター情報（季刊）VOL.12 NO.4　発行日：平成25年1月15日　発行人：岡澤和好
発行所：公益財団法人　日本産業廃棄物処理振興センター
〒102-0084　東京都千代田区二番町3番地 麹町スクエア7階
TEL：03-5275-7111　FAX：03-5275-7112　http://www.jwnet.or.jp/
デザイン・印刷　株式会社ぎょうせい